

施工要領

【注意・説明】

- ・遮音性を高めるため、裏側に特殊緩衝剤を使用している都合上、一般的なフローリングと比べると歩行時に柔らかく沈むような歩行感を感じる場合があります。
- ・クッション性のある構造のため、歩行時に板の継ぎ目部分が擦れて、キシキシといった音が発生する可能性があります。
- ・木目や色味には個体差があります。
- ・サンプルでは商品の特徴を全て表現することが難しく、全てを反映しきれませんのであらかじめご理解の上ご購入ください。
- ・木は、夏場の湿気を吸収して膨張し、冬場に乾燥すると湿気を放出して収縮します。時期によりますが、木の伸縮を考慮した施工が一般的です。
- ・湿度環境により、継ぎ目のスキ、反り、突き上げが発生する場合があります。

【施工前の確認】

- ・製品の品番、数量に誤りが無いか、また損傷が無いかをご確認ください。
- ・製品の保管には充分ご注意ください。雨ざらし、直射日光の当たる場所は避けてください。
- ・また、立てかけたりせず、室内の平滑な場所に保管してください。その際直接床面には置かないでください。
- ・製品に極端な不具合がありましたら、お手数をおかけいたしますが施工前にお買い求め店、または当社までお申し出ください。施工後のお申し出には応じかねます。

【下地条件】

- ・モルタル下地への施工が基本となります。・モルタル下地の場合、含水率が10%以下であることを確認してください。打設後、夏期で3週間、冬期で4週間が目安になります。
- ・乾燥が不十分な場合は接着不良や床材の反り、隙、突き上げの原因になります。地形や地質、湿式工事の影響による水分(湿気)には充分ご配慮ください。
- ・施工面に粉ふきやホコリ、油・水分等がある場合には充分に除去、清掃してください。接着不良の原因になります。
- ・接着不良の原因となりえる接着剤は使用しないでください。

【際根太について】

- ・開口部及び壁面では同梱部材の際根太で補強してください。(玄関框、床見切り、掃出し、ドア沓摺り、サッシ、和室敷居等との突き付け部)
- ・際根太は接着剤でしっかりと固定してください。次に際根太に当たる床材裏面の緩衝材を、際根太に合わせてカットしてから床材を接着剤で固定してください。
- ・際根太を使用しないと段差、隙間、床鳴りの原因となります。
- ※床材の端部(サネ部分)が際根太から少し出してしまう場合(40mm以下)、サネが破損する可能性があるため際根太の中を調整してお使いください。
- ・「際根太を任意で使用する部位」・・・壁際の中木下の際根太の設置はお施主様、セネコン様、施工業者様で協議の上、仕様をお決めください。
- ※際根太を入れる場合は、際根太を接着剤で固定し、伸縮吸収のため際根太上の床材部分は固定しないでください。※際根太を入れた場合、家具等が傾く場合があります。
- ※際根太を入れない場合、壁際を歩いたときや、家具等を置いたときに中木の下に隙間が生じます。

【施工手順】

- ・天然木を使用しているため、色や木目に特有の違いがあります。施工前に必ず仮並べをして、色・柄のバランスをご確認していただくと仕上がりが更に美しくなります。
- ・万が一、床材表面に損傷や塗装の不良等がございましたら、施工前にお買い求め店、または当社までお申し出ください。※施工後のお申し出には応じかねます。
- ・突き上げ、隙などの不具合が発生する場合がありますので、連続した長い床張りとなる場合は、床材の伸びを吸収するために見切り材を入れて、隙間を持たせて施工してください。
- ・床材が膨張し、突き上げが生じる恐れがあるため、壁面との間に3mm程度隙間をあけてください。またこれを隠すため中木を後付けしてください。
- ・下地確認後、接着剤を専用クシ目ゴテで下地全面に塗布し、施工の際は絶対に足で蹴り込んだり、無理に叩き込んだりしないでください。
- ・長手方向のジョイント部は軽くふれる程度に寄せ、短手方向のジョイント部は0.2mm程度の隙間をあけて施工してください。
- ・床材をできるだけ近くに置いて横スランをなるべく少なくし、接着剤が床材のジョイント部分に溜まらないように施工してください。
- ・接着剤が溜まったまま硬化すると歩行感が悪化したり防音性能を低下させることがあります。
- ・接着剤が床材の表面に付着した場合は、直ちにウエスで拭き取ってください。
- ・基本的な貼り方は乱貼りになります。これ以外につきましてはご相談ください。